



短期入所中の 日中活動について

三重病院では重症心身障がい児・者の医療型短期入所の受け入れを、院内の各病棟で行っています。短期入所中は慣れない環境・慣れない日課で、ストレスを感じることも多いと思いますが、少しでも「楽しい・うれしい・頑張った」と思える時間が提供できればと考え、理学療法士と児童指導員とで日中活動支援を行っています。具体的には、ご利用期間中に1～2回、リハビリもしくは療育活動をベッドサイドで実施しています。

療育活動ではご利用者の体調にもよりますが、前半に「呼名の歌」「スキンシップ体操」を行い、後半は季節の制作や楽器遊び、絵本の読み聞かせなどを行っています。「はじめまして」のときは表情が硬かったり緊張が強かったりする方も、回数を重ねるうちに訪室の声かけだけで笑ってくださったり、手をさするとリラックスした表情をされたりと、療育者を受け入れてくれる様子が見られるようになります。短期入所という限られた時間の中ではありますが、日中活動を通してご利用者ひとりひとりの「感じる力」や「つながる力」が確かに育まれていることを実感でき、療育者にとっても大きな喜びと励みになっています。

これからも多職種で連携しながら、ご利用者がその方らしく過ごせる時間を大切にした日中活動支援を提供していきたいと思ひます。

(療育指導室長 村松 順子)

精神障害年金の更新と、 成人精神科への移行について

現在、知的障害がありながらも大きな治療を必要とせず、安定した日常生活を送れていることは、ご本人にとってもご家族にとっても、とても喜ばしいことです。その一方で、その「安定した状態」を定期的に医

療の視点で確認し、記録として残していくことには、大切な意味があります。

成人精神科では、症状の有無だけでなく、日常生活の送りやすさや対人関係、社会との関わり、今後起こり得る変化なども含めて、総合的に診察を行います。特に困りごとが目立たない時期から関わっておくことで、将来もし何か変化や心配ごとが生じた際にも、安心して相談できる関係を築くことができます。

精神障害年金の更新においても、成人期の生活状況を継続して把握している医療機関が定期的に関与していることは、状態の継続性を分かりやすく伝える上で重要です。年金のための「診断書作成」だけが目的になりがちですが、本来は、ご本人がどのような生活を送り、どのような支援が引き続き必要かを、丁寧に確認していくことが大切だと考えています。

小児科は、これまで成長や発達の過程を見守る役割を担ってきましたが、今後は成人期に適した医療へと少しずつ移行していくことが、ご本人にとっても自然で、負担の少ない選択となります。当院では、その移行の過程を大切にしながら、成人精神科への受診についても丁寧にご案内していきます。

「何か問題が起きてから初めて受診する」という状況を避けるためにも、日常生活が安定している今の時期から、成人精神科での定期的な関わりを持っておくことが安心につながります。これからの生活をより安心して続けていくために、成人期に合った医療につながっていくことを、一緒に考えていきましょう。

(小児科医師 中村 智美)

月の
みえツうちゃん



雨の中でも楽しそう
みえツうちゃんのイラスト
ありがとうございます

三重病院
Instagram

こちらから
どうぞ



▲ritoさん
みなさまも、
どしどし応募してくださいね。